

2015年度総会議事録

日 時：2015年5月22日（金）13時30分～15時10分
場 所：つくば国際会議場大ホール（茨城県つくば市）

出席理事：新野 宏，藤谷徳之助，岩崎俊樹，榎本剛，近藤 豊，佐藤 薫，佐藤正樹，塩谷雅人，竹内綾子，竹見哲也，田中 博，中島映至，中村 尚，長谷部文雄，廣岡俊彦，藤部文昭，三上正男，山田和孝，余田成男，以上19名（理事現在数20名）

出席監事：岡本幸三，高谷康太郎，以上2名

参加者数：個人会員の会場出席者55名，総会参加票による出席者1,745名，合計1,800名。（個人会員現在総数3,304名（2015年4月9日現在））

決議の要件：社員総会の決議は，総社員の議決権の3分の1以上を有する社員が出席し，出席社員の議決権の過半数をもって行う。（定款第17条）

議 事

1. 開会

山田理事より出席状況と決議の要件を満たしていることが報告され，総会の開会が宣言された。

2. 議長選出

総会議長に田中 博会員（筑波大学）を選出した。

3. 理事長挨拶

本大会の開催に尽力いただいた大会委員長を始めとする筑波大学，宇宙航空研究開発機構，国立環境研究所，産業技術総合研究所，農業環境技術研究所，防災科学技術研究所の会員，講演企画委員会の皆様にお礼申し上げる。快適な会場で熱のこもった講演と議論が行われていることを大変嬉しく思う。

最初に，大変残念な悲しいお知らせを申し上げねばならない。佐々木嘉和名誉会員が3月12日に88歳でご逝去された。佐々木名誉会員は，オクラホマ大学の気象学教室の創設者の一人であり，変分法に関する先駆的な成果を挙げられた。また，日本からの多くの留学生をオクラホマ大学に受け入れるとともに，度々来日され，気象学を通じた日米の科学交流と若手研究者の育成にご尽力下さいました。ご冥福をお祈りします。

京都での秋季大会の直前の10月26日～27日に開かれる7回目の日中韓気象学会共催国際会議については，今回から会議名を Asian Conference on Mete-

orology と変更し，将来的にはアジア全体をも視野に入れた，より魅力的な会議にしようということになった。関係する研究者の皆様は是非積極的に参加願う。

大型研究計画に関するマスタープラン2017に向けては，日本学術会議地球惑星科学委員会ではマスタープラン2014で気象学会から提案した「気候変動予測連携研究拠点」と「航空機観測による大気科学・気候システム研究の推進」の2件を含む，地球惑星科学関連で提案した6件のうち1件しか重点課題に採用されなかったことを深刻に受け止め，昨年末にフォローアップワークショップを行った。気象学会では，このワークショップで頂いた有益なコメントをもとに，9月に開催予定の研究集会などを通して，計画を練り上げたい。

秋季大会においては，ここ数年，発表件数が多く，講演時間が十分にとれないという問題が生じており，2014年度に開催した2回の支部長会議においても議論した。この問題に対し，企画調整委員会の中に財政・支部体制・会員制度検討WGを設置して検討を開始した。現在のところ，秋季大会の実施形態については，支部ごとの状況にもとづき柔軟に選択可能とすること，講演者は招待講演等を除き，原則学会員に限るようにすること，大会参加費等については，会員・非会員の区別を導入することなどを検討している。その他，大会関係では，学会の普及啓発活動の一環として，今回初めての試みとして，ジュニアセッションを開催した。幅広い地域から17件，内中学校から3件の申し込みがあった。是非ポスター会場に足を運んで，若い人たちの興味を深め，気象の世界に進んでもらえるように勇気づけていただきたい。

提言関係では，「原子力関連施設の事故に伴う放射性物質拡散に関する作業部会」を中心に，昨年10月の原子力規制委員会の審議に対し，「原子力関連施設の事故に伴う放射性物質の大気拡散監視・予測技術の強化に関する提言」案をまとめ理事会での承認を得て，昨年12月17日に提言を発出した。また，3月には原子力規制委員会より「原子力災害対策指針（改定原案）及び原子力災害対策特別措置法に基づき原子力防災管理者が通報すべき事象に関する

規則の一部を改正する規則（案）に対する意見募集」が行われたことから、先の提言を踏まえた意見を提出した。今後も科学的な立場から数値モデルの有用性を説明する必要がある。

地球環境問題委員会では昨年12月に、朝倉書店から「地球温暖化—そのメカニズムと不確実性」を刊行し、大変好評であると聞いている。社会に温暖化の正しい知識を伝えるため、是非、周囲の方々にも宣伝いただきたい。

今回の総会に当たり、全会員の54%にあたる1783名の会員の方から、総会参加票の提出をいただくとともに、総会参加票に添えて貴重な意見をいただいた。重要な意見等に対しては、「天気」誌上に回答を掲載するとともに、真摯に受け止め、学会運営に役立てたい。

東京大学の近藤 豊会員が日本学士院賞を受賞された。また、竹村俊彦会員、三好建正会員、渡部雅浩会員が地球惑星科学連合で新設された地球惑星科学振興西田賞を受賞された。受賞された皆様にお祝い申し上げますと共に、推薦に当たられた皆様に感謝申し上げます。

最後に、本大会の開催に当たって尽力いただいた皆様に改めてお礼を申し上げます。

4. 表彰

(1) 日本気象学会賞

日本気象学会賞候補者推薦委員会委員長の余田理事が選定理由を説明し、新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

小司禎教（気象庁気象研究所）

GNSS 地上観測網による水蒸気量推定と気象学への応用に関する研究

(2) 藤原賞

藤原賞候補者推薦委員会委員長の中島理事が選定理由を説明し、新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

木本昌秀（東京大学大気海洋研究所）

気候モデルの開発を通じた我が国の地球温暖化研究の推進と気候変動にかかわる社会への情報発信

中澤哲夫（International Coordination Office, Korean Meteorological Administration）

熱帯気象学及びアジアモンスーン気象学におけ

る国際協力の推進

(3) 岸保賞

岸保賞候補者推薦委員会委員長の岩崎理事が選定理由を説明し、新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

齊藤和雄（気象庁気象研究所）

気象庁非静力学モデルの現実化とメソスケール気象予測の高度化を通じた社会貢献

(4) 気象集誌論文賞

気象集誌編集委員会委員長の佐藤正樹理事が選定理由を説明した。受賞者と、受賞対象となった論文タイトルは以下の通り。

Akira NODA

“Generalized Transformed Eulerian Mean (GTEM) Description for Boussinesq Fluids”

Jianrong BI, Jinsen SHI, Yongkun XIE, Yuzhi LIU, Tamio TAKAMURA, Pradeep KHATRI

“Dust Aerosol Characteristics and Shortwave Radiative Impact at a Gobi Desert of Northwest China during the Spring of 2012”

Takeshi HORINOUCI

“Influence of Upper Tropospheric Disturbances on the Synoptic Variability of Precipitation and Moisture Transport over Summer-time East Asia and the Northwestern Pacific”

Tadashi TSUYUKI

“Deterministic Predictability of the Most Probable State and Reformulation of Variational Data Assimilation”

(5) SOLA 論文賞

SOLA 編集委員会委員長の竹見理事が選定理由を説明した。受賞者と、受賞対象となった論文タイトルは以下の通り。

Toru MIYAMA and Takuya HASEGAWA

“Impact of Sea Surface Temperature on Westerlies over the Western Pacific Warm Pool: Case Study of an Event in 2001/02”

5. 2015年度総会議案審議

(1) 提案説明

議案1：2014年度事業報告

山田理事から、研究会及び講演会等の開催と普及・啓発活動、機関誌等の刊行、研究業績の表

彰、会員の異動状況、役員の選任及び解任、会議等の開催の事業報告があった。

議案2：2014年度決算報告

竹内理事から、公益法人会計基準に従った決算報告があった。寄付金の運用益を正野賞賞金の一部に充てること、基本財産の「山本・正野論文賞」について名称を「山本賞、正野賞」に変更すること、日中韓共催国際会議開催経費を勘案した特定資産の積み立ての状況などが説明された。

議案3：2014年度監査報告

高谷監事から、帳簿類の管理、収支、事業執行状況と会員数の動向等に関する監査結果が報告された。

2014年度の活動について、大会・研究会の開催と機関誌等の順調な刊行、教育・啓発活動の各地での活発な活動、地球温暖化に関する書籍の出版、ジュニアセッション開催等新しい活動に取り組む姿勢、「原子力関連施設の事故に伴う放射性物質の大気拡散監視・予測技術の強化に関する提言」の発出や意見書の提出、有期雇用研究者の雇用環境改善のための要請の発出について高い評価を受けた。一方、会員数の減少傾向については、若手会員の意見を取り込みながらの大会運営に関し全般的な議論の必要性が指摘された。

(2) 質疑応答

意見なし。

6. 採択

議案1, 2, 3について、採決の結果、以下のよう
に賛成多数で承認された。

有効総会参加票1,520票のうち、理事会案賛成546票、議案別意思表示70票、議長委任903票及び個人会員委任1票で、議長委任票及び個人会員委任票は全て理事会案に賛成であった。また、会場に出席した個人会員109名は全て理事会案に賛成であった。

議案1：賛成1,620, 反対3, 保留6

議案2：賛成1,622, 反対0, 保留7

議案3：賛成1,624, 反対0, 保留5

7. 2015年度総会報告事項

(1) 内容説明

報告1：2015年度事業計画

山田理事から、従来の事業を継続して実施することに加えて、財政・支部体制・会員制度等を検

討するワーキンググループを設置すること、学会サーバの整備を進めることが説明された。

報告2：2015年度収支予算

竹内理事から、受取会費の収益減と、日中韓共催会議分増に伴う支出増、選挙実施に伴う支出増を含む収支予算について説明があった。

(2) 質疑応答

最終日がJpGU大会の初日と重なっている点について質問があった。田中理事から、重ならないよう調整したが会場の都合で止むを得なかったと回答された。

日中韓合同気象学会の案内に関して質問があった。長谷部理事から、気象学会のサイトに会議のページが立ち上がっており、現在は受付開始の準備を行っているとの回答があった。

ジュニアセッションについて、JpGUとの開催調整や参加者への対応、広報体制について質問があった。田中理事から、参加者への対応は保護者を含む関係者を招待していること、広報については各県の教育委員会やSSHの理科担当者に宣伝を行ったことが報告された。

8. 感謝状贈呈

新野理事長から、事務局に長年勤務し気象学会の運営に多大な貢献をした棚橋公子会員及び田沢秀隆会員に感謝状が授与された。

9. 議事録署名人の指名

議事録署名人に日下博幸会員（筑波大学）と若月泰孝会員（筑波大学）を指名したところ、異議なく承認された。

10. 議長解任

田中議長により、総会の議事運営に関する出席者の協力に感謝する旨の挨拶があり、議長は解任された。

11. 閉会

山田理事により総会の閉会が宣言された。

以上の議事録の通り相違ありません。

平成27年6月15日

総会議長 田中博
出席者代表 日下博幸
出席者代表 若月泰孝